

# ひがしの子

令和5年2月1日  
岐阜市立岐阜東幼稚園  
園長 藤井 佐由美

## 2022年度ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文 優秀園受賞



1月30日教育長室にて

このプログラムは、公益財団法人ソニー教育財団が、未来を生きる子どもの成長を願い、「科学する心を育てる」をテーマとした乳幼児教育支援として、2002年度に開始したプログラムです。岐阜東幼稚園は乳幼児施設としては、岐阜県内で初となる最優秀園に次ぐ優秀園を受賞しました。1月28日（土）には、ソニー本社において、贈呈式に出席しました。贈呈式では2年ぶりにソニー吹奏楽団の生演奏が実施され心を動かされる素敵な式でした。

1月30日（月）の岐阜市長の定例記者会見にて発表され、その後岐阜市長のTwitterにも掲載されているようです。

本園の論文では、「科学する心」を4段階で捉え、それにより豊かな感性と創造性が育つというプロセスを構造的に研究していきました。その中で、子どもが興味関心をもった小さな気付きや発見を、教師が深め広げるために、どのような環境や援助が効果的であるかを、職員間で検討しながら進めていった研究が評価されています。また、子どもたちが仲間と共に、生き生きと探究を深めていく姿、新たな目標へつなげる保育者の予想とビジョン、経験を土台に大人の予想をはるかに超えていく子どもの気付きや思考、それをワクワクしながら保育者はさらに豊かなものになるように環境を整え、考察を重ねていく様子が評価されています。論文は担当が一人で仕上げたものではなく、創意工夫ある独創的なカリキュラムマネジメントのもと各職員が役割を分担しながらアイデアを出し合い書き綴ったものになります。いわば、岐阜東幼稚園の総力と言えます。

更に、保護者が子どものやりたいことに寄り添い、必要な物を共に探し、願いが叶うために必要なものを用意してくださったこと、うまくいかなかったこと成功したことをその時々で、丁寧に受け止めてくださったことなどが、子どもたちの探究心を持続することにつながりました。

地域力の活用では、岐阜市科学館とのオンライン及び出前講座での交流により、子どもたちは専門家の知識と実演に心躍らせ、憧れの念と自分たちもやり遂げたい思いを強くしていきました。

これら全てが相乗効果を生み、今回の受賞につながったのだと思い、心より感謝いたします。

私たち職員はこれに満足することなく、これからも力を合わせて前進していきたいと思えます。現在のたいよう組、なつめ組、こあら組の子どもたちも、発達に応じて「科学する心」をもっています。私たち大人が子どもの気付きや発見をワクワクしながら一緒に楽しんでいく姿勢をこれからも大切にしていきたいと思います。



こあら組は、ALTとの交流やオーレ・チャンプ！（サッカー遊び）など、今まではなかったことができることにより、喜びを感じたり様子を探ったりする姿が見られます。中でも、1年近く一緒に過ごしてきた友達のことを子どもなりに捉え、関わる姿があります。その一部を紹介します。ある日、A児とB児が二人で並んでソファに座り、好きな絵本を見始めました。すると、あとからC児が来て、同じようにソファ



に座りました。A児はC児をちらっと見て、「Cさんも一緒に遊びたいの？」と尋ね、C児が「うん。」と応えると、すかさず「優しくしてね。」とニコッと微笑みます。C児は「わかった。」と応えました。このやり取りから、A児がC児に対して少しずつですがパーソナリティの理解を進めている姿が見て取れます。強い関わりの中にもあるけれど、ちゃんと伝えれば優しくなってくれること、日頃の関わりの中でC児に助けってもらって嬉しかったこともあることなど、C児のことを「〇〇もあるけど、△△の姿もある・・・」と経験から感じ取っているのですね。先生たちの子どもへの関わり方を見て学んでいる姿も反映されていると思います。4歳になっていくこあら組の発達の様子が顕著に表れている場面でした。



なつめ組は、一体感を感じられる姿が増えてきました。オーレ・チャンプ！が始まった頃（5月）は、ゴールとゴールの間、コートのだ真ん中で砂遊びをするD児とE児の姿があり、「なつめさんは、今みんなでサッカーしてるんだけどなあ…」と声をかけると、「みんながやりたいわけじゃないんだからいいの！」と断言していました。しかし、今では「勝ちたい」思いが強くなって、仲間にパスしようとする姿さえ見られるようになってきたのです。悔しいというネガティブな感情を経験することで勝ったときの喜びも強くなるため様々な感情を出しやすい幼児期に思い切り出しておくことが必要ですね。

絵本作りや折り紙でのペープサートなどクオリティにこだわる姿も多く、時にたいよう組の子どもを焦らせるほどの出来栄のこともあります。ごっこ遊びのイメージが面白くて、日常の現実と空想のイメージが行き来するまさに4歳児らしい姿が多く見られます。ある日、ままごとコーナーで各々に着飾り「学校ごっこ」や「地震ごっこ」をしていました。初めは地震が起こると、たくさんの布にくるまってシェイクアウトの姿勢をとりしばらくじっとして日常の現実をそれらしく表現していました。そのうちに、突然F児が「上靴の地震だから（上靴を）この中に入れて！」と言って、段ボールのはてなボックスの中に自分の上靴を入れました。G児は、一瞬

『上靴の地震?』『なんで箱の中に入れるの?』というような顔をして、F児が入れた上靴をのぞき込んでいました。しかし、次の瞬間自分の上靴を脱いで箱の中に入れたのです。F児の空想のイメージはG児に伝わりにくかったものの、『よく分からない』『本当は納得してない』『でも、一緒にその空間を味わいたい』というのがG児の気持ちだったのでしょうか…相手に同調しようとするG児の姿に育ちを感じました。

たいよう組は、楽しみ会に向けて連日、楽器や劇遊びの話し合い、衣装作りに夢中です。どんなお話にするのか、どんな楽器をやりたいのか、演じる役をどう表現するのかなど、子どもたちにとって話し合いの必然がある内容が盛りだくさんです。『こども会議』と名付けて呼びかけるとすぐに集まり、意見を交わす姿が育ってきています。衣装作りでも、素材にこだわりそれぞれが自分のイメージしたものに見合う素材を集めて、うまくいくかどうかは別ですが自分なりのやり方で図鑑やタブレットで調べながら、より本物らしくなるようこだわりポイントをもって制作しています。布もぎこちないながらに裁断し、イメージに合うものを時に体に合わせて確認しながら作る姿が職人っぽいです。背中につける羽などは、「ちょっと、自分で見えないから、肩から腰のところに合うようにしてくれない?」と、どうしてもうまくいかないところは大人を頼りながら進めていきます。自分の作品のこだわりポイントの説明の仕方が素晴らしいです。本当に思いを込めて選んでいること、作っていることが伺えます。実際は、大人から見たら見栄えの良いものではないかもしれませんが、しかし、一人一人の子どもが自分で選択して自分で仕上げた衣装です。こだわりポイントを見つけて、いっぱい認めてあげていただくとありがたいと思います。



## 《2月の保育について》

### 【3歳児】

- 先生や友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを楽しむ。
- 自分の身の回りのことに気づき、やってみようとする。

### 【4歳児】

- 自分の思いを出したり、相手の思いを聞いたりしてそれに応じようとする。
- 考えたり工夫したりしたことを、いろいろな方法で表現することを楽しむ。

### 【5歳児】

- クラスの共通の目的に向かって話し合い、自分なりの力を発揮し、みんなでやり遂げた満足感を味わう。
- なりたいものを調べたり描いたりしながら自分なりにこだわって創り上げる。

## お知らせとお願い

### ☆楽しみ会に向けて

それぞれのクラスでは楽しみ会に向けて劇遊びをしたり、歌を歌ったり、楽器遊びをしたりしています。学年により、取り組み方は異なります。

幼稚園では、『きちんとやらせる・見栄えを優先する』ということではなく、子ども一人一人が何をしたいのか、何を楽しもうとしているのかということを見極め、その子らしい表現を大切にしていきたいと考えています。そして、当日までの子どもたちの取り組み、それから先につながる姿を育ちと捉え、育ちとなるよう援助していきたいと思えます。

大勢の保護者の方々の前に立ち、緊張する子もいることと思えます。ふだんとは違う姿が出ることもあるかと思えます。保護者の方々の笑顔や拍手、やさしい眼差しが、子どもたちの緊張を和らげてくれると思えます。ご協力、よろしくお願ひします。

楽しみ会当日には、保護者の方々からも、子どもたちに向けて「お楽しみ」を披露していただけるようです。ご多用の中、ご準備くださりありがとうございます。保護者の方々の「一生懸命」が子どもたちの「楽しい」「うれしい」「すてき」「やってみたい」などの気持ちにつながることと思えます。誰でも参加しやすいもので、ご無理のないようによろしくお願ひします。